

平成 29 年度第 2 回産業振興ビジョン推進委員会会議要旨

実施日：平成 29 年 10 月 5 日 10 時 00 分～12 時 00 分

出席者：別紙のとおり

区分	内容
<p>評価チームの報告 進行管理</p>	<p>○評価報告 評価チーム座長中村貴子副委員長より</p> <p>○評価チームの活動報告 第 1 回の検討会議においては、内部点検の手法、基準、進捗管理についてアクションプランの内部点検全体の評価を実施。その後、アクションプランの一部と、代表的な例として取組達成度が「C」であったアクションプランについて、審議を行った。</p> <p>第 2 回の検討会議では、第 1 回の検討会議を踏まえ、アクションプラン全体の中で、推進委員会の各部会で諮るべきと思われるアクションプランについて審議を行った。</p> <p>上記の審議を経て評価意見書として座長が取りまとめ、郡庁委員長に報告を行った。</p> <p>○産業振興ビジョンの進行管理について 各部会・全体会の審議内容を委員長とりまとめの上、第 3 回推進委員会に諮り、その後市へ意見書として報告する。</p>
<p>各部会の審議 (農業)</p>	<p>『農地中間管理機構（農地集積バンク）、利用権設定等促進事業について』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動指標は単年度の集積面積であるが、延べ集積面積も併記してはどうか。 <p>『京田辺市産農産物を使ったイベント開催や情報発信について』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回数だけでなく、PR イベントの中身も重要である。 ・活動指標としては、市の主催事業だけでなく、市以外の団体が主催しているイベントに共催、協賛という形で関わった件数を加えることも検討してはどうか。 <p>『農業者の資質向上に向けた研修会の実施について』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の高齢化が進む中、新規就農や後継者育成など次の担い手育成につながるような研修を検討してはどうか。
<p>各部会の審議 (商工・観光)</p>	<p>『宿泊施設立地に向けた検討について』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、住宅宿泊事業（民泊）への対応に関する検討を行うべき ・宿泊施設を誘致する際は、ターゲットとする主な客層（観光客、ビジネスマン）を意識して行うべき。 <p>『観光案内機能の充実について』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ボランティアガイドなどの市民との協働を検討すべき。 ・将来、新幹線新駅の設置が予定されている松井山手駅付近に観光案内所を設置することを検討すべき。 <p>『伝統行事に触れる機会や各種行事への参加の促進について』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育、文化面での支援と連携して若年層の参加の促進を図り、後継者育成に協力するべき。

	<p>・代々京田辺市で過ごした方々だけではなく、近年に移り住んだ方々も参加できるような案内をすべき。</p>
<p>各部会の審議 (工業)</p>	<p>『企業と連携した工場見学ツアーの開催について』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京田辺市は学校も多く交通の利便性も高いが、なかなか若者を地元就職に引きつけることができていない。若い内から市内企業のことを知ってもらうことが大事。 ・学生について、インターンシップなどの機会も増えてきたが、複数の企業を早い段階で知ることで、地元の企業に目を向けてくれるようになるのでは。 <p>『D-egg の卒業企業の市内誘致について』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内での事業用地が枯渇しており、今後、卒業後の市内立地の誘導が困難になることが見込まれる。 ・新たな起業家の芽を摘むことのないよう、事業用地の確保について、市としても取り組んでいってもらいたい。 <p>『事業環境向上のための企業と行政の懇談の場づくりについて』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政主体ではなく、行政側の支援という形で、懇談の場の仕組みづくりが進んでいるという報告があったため、その推移を見守ることとする。
<p>各部会審議概要報告・全体の質疑応答</p>	<p>○審議概要報告 各部会長より概要について報告</p> <p>○その他意見</p> <p>『流通部門について』</p> <p>既に市内に大きな流通センターの誘致に成功しているので、今後も関空からの利便性が高く、更に各方面へのアクセスが良いまちの特性を活かした流通部門での発展を意識してはどうか。</p> <p>『特産品の活用について』</p> <p>山城就労支援事務所では、えびいもや京都田辺茄子といった代表的な特産品だけでなく、他の産品も使ったカフェメニューを提供している。市としてもこういったところをより PR していくべきではないか。</p> <p>『事業実施の主体について』</p> <p>市の関わりや支援のあり方について、市民なのか、企業なのか、誰が主体となってやっていくのかをもう少し明確にする必要があると思われる。</p> <p>『時代の変化への対応』</p> <p>農業や伝統的な祭りの担い手をどう確保していくのか、新幹線や高速道路等のインフラ整備が進むことで産業がどのように発展していくのか、オリンピックを控え成長を続ける観光分野における民泊等の新たな動きと市民生活の間の摩擦にどのように対応するのかなど、時代の変化が生み出す新たな課題に今後どう向</p>

	き合っていくのか検討する必要がある。
--	--------------------